

授受動詞を使った文における主語省略の分析

—語用論からの一考察—

クンタディ ヌグロホ
0142029

マラナターキリスト教大学
文学部日本語学科

バンドン
2007

序論

人は意志、意見、感情を他人に伝えるために、言葉という手段を使って発するのである。対話というものにおいては一人の人間が一方的にしゃべるのではなく、その人間の発話に対して応対するほかの人間の発話が必ずある。それにより、コミュニケーションが成り立つのである。両者の発言した文の一連をより大きな意味のある文のまとまりにすると、談話というものが出来上がる。談話の意味は単に言葉あるいは文の示す意味にだけによらず、その背景 の 場面、つまり言葉以外要素もその意味を左右するのである。次ぎの例文を見てみよう。

雪さんが弟にこの本をくれた。

日本語の分かる人は、弟は話者の弟であり、雪さんの弟でわなことが すぐ分かるのである。なぜならば、当人は言葉以外にある事柄、つまり文脈を理解しているからである。談話における文脈が理解できれば会話はスムーズに効果的になるのである。もう一つ例を挙げると、次のようなものがある。

これを先生にいただきました。

上文には主語が出ていないが、使われた動詞から見れば、誰がその本をもらったか、分かるのである。主語がはっきりした場合、それを省略することが出来るのである。授受動詞を使った文には主語がよく省略される。以上の理由に基づいて、本論文では談話において、いかなる主語が出現すべきか、また、授受動詞を使った文において省略された主語を決めるにあたっての特徴を探ることとする。

本論

分析を進める前に語用論とは何であるか見てみよう。町田は語用論とは発話の意味を扱う言語学の一分野である、と言っている。

日本語の会話において、語、助詞、名詞句の省略がその特徴の一つである。そのような省略が行われたとしても、会話はスムーズに続けることが出来る（庵、2001、123）

授受動詞を使った会話文では、統語的機能の省略がなされている。次の例を見よう。

千：「お父さんお母さん、河の神様からもらったおダンゴだよ、」

上文の省略された統語的機能は主語である。上文の省略された主語は「私」である。主語である千は父親や母親に自分がダンゴをもらったことを知らせようとしているのである。主語が省略されたことは述語になっている動詞が授受動詞「もらう」であることで分かるのである。

自然ではないが、その文を完全な文に直すと次のような文になる。

「お父さんお母さんこれは、私が河の神様からもらったダンゴだよ」

会話においては、ある要素が省略されたことは、その文脈から理解できる。その文が聞き手に理解される要因としては、言葉になっていない要素、
会話が？行われる文脈

及び場面がある。談話文脈を理解するためには関連、推論などを使うことができる。

結論

授受動詞を使った文において、省略された主語は、動詞また文脈により異なる。

1. 一人称の主語は、動詞、助動詞 の「あげる」「もらう」が出てきた場合、省略できる。
2. 二人称の主語は動詞、「くれる」「もらう」が出てきた場合、省略できる。
3. 特定の人間あるいは、疑問詞の「どなた」は、動詞「あげる」「くれる」が出てきた場合省略できる。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	ii
DAFTAR ISI.....	vi
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 LATAR BELAKANG.....	1
1.2 RUMUSAN MASALAH.....	6
1.3 TUJUAN PENELITIAN.....	7
1.4 METODE DAN TEKNIK PENELITIAN.....	7
1.5 ORGANISASI PENULISAN.....	8
BAB II LANDASAN TEORI.....	9
2.1 PELESAPAN.....	9
2.2 VERBA MEMBERI DAN MENERIMA (<i>JUJUDŌSHI</i> 授受動詞).....	12
2.3 JUJUDŌSHI SEBAGAI VERBA BANTU (<i>HOJODŌSHI</i> 補助動詞).....	15
2.4 PELESAPAN DALAM KALIMAT YANG MENGGUNAKAN <i>JUJUDŌSHI</i>	15
2.5 PRAGMATIK (<i>Goyōron</i> 語用論).....	16
2.5.1 Definisi Pragmatik	17
2.5.2 Implikatur (<i>Gani</i> 含意).....	18
2.5.3 Referensi (<i>Shiji</i> 指示) dan Inferensi (<i>Suiron</i> 推論).....	21
BAB III ANALISIS SUBJEK YANG LESAP.....	23
3.1 VERBA AGERU.....	23
3.2 VERBA KURERU.....	25

3.3	VERBA MORAU	30
3.4	VERBA YARIMORAI SEBAGAI VERBA BANTU.....	35
3.4.1	VERBA BANTU AGERU (~te ageru)	35
3.4.2	VERBA BANTU KURERU(~te kureru).....	43
3.4.3	VERBA BANTU MORAU (~te morau).....	58
BAB IV KESIMPULAN.....		60
SINOPSIS.....		viii
DAFTAR PUSTAKA.....		xii
LAMPIRAN A.....		xiii
LAMPIRAN B.....		xxi
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....		xxvii